

深めよう!おやこの絆

～おやこ一冊読書・宝本の取組～



鹿児島県立図書館（鹿児島県鹿児島市） <http://www.library.pref.kagoshima.jp/honkan/>

基本データ（数値はH25年現在）

住所	鹿児島市城山町7番1号
電話番号	099-224-9511
人口（図書館が所在する市町村）	60万人
職員数（うち有資格者数）	42人（22人）
蔵書数	772,762冊
登録者数	124,434人
年間貸出冊数（H24）	314,765冊

目的・趣旨

一冊の本を親子でじっくりと繰り返し読む「おやこ一冊読書」を通して、親子の絆を深める「宝本」をつくることを推奨する。

取組概要

- 鹿児島県子ども読書活動推進計画に基づき、平成23年度から取り組んでいる。
- 年1回「宝本エピソード」や「おやこ一冊読書」の取組を募集し、我が家の宝本にまつわるエピソードを「おやこ一冊読書展」として館内に掲示する。
- 我が家の宝本を持参した利用者の宝本に、大きなハンコを押すサービスを実施している。



〈宝本のハンコを押した本〉

特徴

- 「おやこ一冊読書」には、次のようなよさがある。
 - 親子の絆が深まる。
喜びや悲しみを共有したり、登場人物の生き方や考え方を語り合ったりすることで、一冊の本が親子の絆となる。
 - 一冊の本をじっくりと読む習慣が身に付く。
たくさん本に触れるなかでも、一冊の本をじっくりと読む習慣が身に付く。
- 宝本エピソードの例
 - 長男の誕生祝いにいただいた『いないいないばあ』が私の読み聞かせデビューの本となりました。目ごとび出しそうな絵に、こわくないかな?と思いながら読み始めたこの本はわたしたち親子のコミュニケーションがとれるようになったきっかけの本でもあります。
汚れて破れてつぎはぎだらけの本ですが、その汚れた所や破れた所にも「ここは長男のよだれのあと」「ここは次男が破いたところ」と、三人の思い出がたくさん詰まったこの一冊、我が家の宝本です。
 - 息子が2歳の時に出会った本が『ゆっくりがいっぱい!』です。その頃の息子は、おっとりしていて、出遅れたり、一人ぼっちでいたりすることが多く、心配した私は「早く!早く!」と急がせていました。そんな時「ゆっくりがいっぱい」「なまけているわけじゃない」と、ナマケモノから学びました。そんな息子も今では自分から進んで何でもできるたくましい11歳。自分の子育ての反省や息子の成長がつまったこの本が我が家の宝本です。



取組の成果と今後について

- ・「宝本は、家族のコミュニケーションが増え、絆が深まる良い機会だと思った。私も息子と我が家の宝本をつくりたい。」「おやこ一冊読書を続けていきたい。」等、改めて親子読書の大切さを実感したという感想が多く寄せられている。
- ・「おやこ一冊読書」に取り組み、独自の宝本エピソード集を作成している学校もある。この取組がさらに広まるよう公立図書館や学校と連携を深めていきたい。